

瀬尾和敬議会だより

《討議資料》



【一般質問 2 回目以降：自席から】



【一般質問 1 回目：登壇して】

総務文教委員長を拝命

経済不況という暗雲を抱えたまま今年も暮れ、また新しい年を迎えます。皆様にはお変わりありませんか。

さて、去る十月十九日の市議会議員選挙は、これまでとは異なる広域選挙であったために、雲を掴むような戦いを余儀なくされましたが、一千二百票をいただきました。当選させていただけました。有り難うございました。票の重みを噛みしめながら、この四年間、皆様のご期待に応えられるよう一生懸命頑張ります。これまで同様、ご指導をよろしくお願いいたします。

ると痛感しています。

秋色に染まる農道
行き交へる
車はもみじマークの多し

この歌は、選挙期間中に感じたことですが、薩摩川内市合同短歌会で「互選一位」に選ばれました。早速、改選後初めての議会で一般質問に立ち、「過疎・辺地・甌島地区などの地域格差の解消」を訴えたところです。向こう四年間、「叩けば響くような議員像」を目指して頑張つて参ります。

なお、改選後の委員会構成が行われ、**総務文教委員長**を拝命しました。消防・総務・財政・教育など、二十三の課・室・所を担当します。重要な役割ではありますが、一杯頑張ります。

平成20年度 第5回補正予算

1億1400万円追加 **総額474億4千万**

平成20年度の第5回補正予算を提示、1億1400万円余りが追加され、一般会計の総額は474億4千万円余りとなりました。昨年度対比0.3%の減です。今回補正された主なものをお知らせします。

○オストメイト対応トイレ設備緊急整備事業 (障害者自立支援事業費＝人工肛門)	200万円
○道路維持修繕事業(15ヶ月執行予算)	1億円
○消防団員証作成業務＝カード(非常勤消防)	40万円
○消防団員章作成業務＝バッジ(非常勤消防)	150万円
○図書館情報機器整備事業 (小中学校近代化設備費＝図書館をオンラインで結ぶ)	2,500万円
○農林水産施設災害復旧事業(小島漁港災害復旧)	1,900万円
○中小企業対策利子補助金《第6回補正》	850万円

岩切市長新体制について

岩切市長の新体制がスタートしました。これまでと変わったことは、副市長2人制にしたこと、市長の直属として政策調整監を配置し、的確でスピーディな政策決定ができるようにしたことです。

マニフェストには次の①～③の3つの基本政策を掲げてあります。

①「協働・参画」・市民が主役のまちづくり

市民協働の充実に向けた改革や、市民の意見提案を聴く市民広聴の拡充、スピーディで質の高い行政サービスの提供

②「安心・快適」・誰もが笑顔で暮らせるまちづくり

安らぎのある地域医療・福祉・子育て支援の拡充と安全・安心の市民生活の確保、快適な生活環境の充実

③「活力」・活力と豊かさを感じるまちづくり

活力のある都市力の創造と次世代に引き継ぐ地域力を創出し、集落再生に関する活動への支援

*広聴体制の強化、薩摩川内市を丸ごと売り込む「シティーセールス」は即実行、集落再生に関しては、次期計画或いは次年度当初予算に反映するとしています。また、生活条件の不利な地域については、買い物、医療、福祉など、ヒト・モノ・経済交流による活性化など多岐にわたる課題を、総合的かつ集中的に取り組むこととしております。マニフェスト達成度についてはチェックして参ります。

瀬尾和敬

一般質問質疑応答の概要

一般質問は、12月10日から15日まで行われ、今回は初日5番目に登壇しました。なお、今回からインターネットでも配信され、お茶の間でも議会に触れることができるようになりました。

【質問】

1. 地域格差の解消について

- (1) 巡回バスの存続について危惧する声があるがどうか。
- (2) 通信情報格差はどのように展開されているか。また、今後の見通しはどうか。
- (3) 山林・田畑・海岸などの環境保全に努めている、過疎・辺地・甌島地域にどのような「総合的な振興策」を考えているか。

【質問の背景】

選挙期間中、多くの場所に足を踏み入れたが、旧4町はもとより、旧川内地域にも過疎・辺地と思われるところが多かった。岩切市長のマニフェストにも見られるとおり、今後の行政の課題は、このような地域に光を当て、活性化を図ることであると痛感した。

質問は、選挙民の皆さんの声の一部を代弁したものである。

【回答】

- (1) アンケート用紙を配布しているが、巡回バスの全面廃止を目的としているわけではない。利用者の減少も見られるので、情報収集を行い、路線変更なども考慮し、公共交通手段の維持・確保を目指している。PR不足もあるので、今後周知を徹底し、地域住民の皆さんの利用促進を図りたい。
- (2) ブロードバンドゼロ地域を目指し、国・県ともタイアップして、2010年までにADSL化を図りたい。携帯電話の不感地域に関しても全力で解消に努める。また、地上デジタル化については、10月に永利で試験放送を開始して、エリアが拡大されたが、今後NHKや国・県の事業も活用し、既存の共聴システムの改修などを経て、平成23年7月24日の全面開始に向けて、万全を期したい。
- (3) 地域再生部会に於いて「薩摩川内版地域再生プログラム」を作成し、検討を加え、2月にはその内容を公表し、21年度の当初予算に反映させたい。また、甌島地区の離島振興計画が24年度までとなっているので、21年度の下期基本計画の策定を踏まえ、計画変更案を策定したい。限界集落を「ゴールド集落」と位置づけて、「この地に生まれて良かった」と言われるような「地域創造」のためのプログラムを作成したい。

【質問】

2. 教育委員会マニフェストの作成について

- ・薩摩川内市教育委員会として、教育の方針などをしっかりと掲げた「マニフェスト」を作成すべきであると考えているがどうか。

【質問の背景】

前教育長は4年間、小中一貫教育に取り組んでこられた。新教育長も、この3月まで薩摩川内市の教育課長として薩摩川内市の健全教育のために尽力されてきた。新教育長は、鹿大附属小学校副校長として「年間2学期制」を提唱されるなど、教育改革の理念に燃えておられる。そこで、62の小中学校の耐震化推進、小中一貫教育の完成等を目途にした「マニフェスト作成」は重要であると考えた。

【回答】

教育基本法が60年ぶりに改正され、国は規定に基づき教育基本計画を策定、県も鹿児島県教育基本計画策定を進めている。薩摩川内市としても、本市の実情に応じた教育基本計画を策定したいと考えている。「マニフェスト」には時期を明示したり、数値化することが求められており、果たしてこれが教育の場で適切なのかと考えている。また何よりも、予算に関わることもあり、今のところ、マニフェスト作成は考えていない。

今後、教育委員会としての方針については、説明責任を果たす意味から、ご質問いただければ教育長として答弁をさせていただきたい。

◇総務文教委員会報告◇

十二月十八日、二十三の課・所の補正予算審査と、所管事務調査を行いました。

今回メインとなったのは、薩摩川内市内の郵便局長さん三名から提出された「郵政民営化法の見直しを求める陳情書」でした。

三名を参考人としてお呼びし、陳情書の内容を吟味したのですが、民営化された郵便局の業務内容が一般の市民に十分に理解されていないこと、郵便貯金、簡保などの株が海外の株主に買われると、不採算地域は廃止される可能性があり、他に金融機関のない地域では、住民にとって非常にゆき問題になる、などの話をしていただきました。

委員会では全会一致で採択されました。十二月定例会は二十五日で閉会。岩切市長にとっても、我々議会議員にとっても、次の三月議会が新年度予算を決定する意味から、文字通り正念場です。

不況による雇用確保の問題、不況による税収減問題など、難問山積です。新年度も、また頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。